

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	愛媛県伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 28年 1月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・春にはホーム周辺に菜の花が、海岸線には桜が咲き乱れ、夏は潮風を浴びながらの日向ぼっこ夕方には見事な夕日が差し込む、自然に恵まれた環境の中で、季節を感じながら1日1日を穏やかに安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。</p> <p>・職員が働きながら学べる環境を重視し、研修への参加・資格獲得への支援に力を入れている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から5年を経過し、地域の社会資源としての認識が広がり、地域の行事等への参加も積極的に行われ、ボランティアが来所するなどの実績も積みあがっている。特に、職員一丸となって利用者と家族のような関係で暮らせる施設づくりに取り組んでいる。利用者自身のことを理解するために「認知症の人のケアマネジメントセンター方式」を活用したり、普段の生活の中で共に調理や後片付け、作品作りや行事などを行い、利用者の思いをくみ取ってかかわっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設の理念のほかに職員の心得を掲げ、職員・利用者が大きな一つの家族となって、利用者はお互いを支えあい職員は利用者に寄り添う支援を心がけています。理念についてはスタッフ会などを利用し話し合う機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 理念は施設内に掲示され、職員の心得も一緒に確認できるようになっている。家族のような関係を重視し、お互いに支えあう、寄り添って声を掛けるなどの実践に日々取り組んでいる。理念や心得にあるように笑顔が多くみられる施設である。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎日の生活の中で地域の方との交流が図れるよう行事に参加したり、買い物や散歩に出かけている。ホームのイベント(餅つきやソーメン流し等)に地域の方をご招待したりしているが、日常的な交流はまだ出来ていない。</p> <p>(外部評価) 餅つきに協力してもらったり、よもぎ取りを手伝ってもらいなど地域の方々と少しずつ交流はできている。近所の店での会話や農作業中の方と会話するなど、日々の生活の中で挨拶や交流を心がけているが、施設への来所者数は少なめで推移している。</p>	小中学校や保育園など、今までにはない切り口で関係性を持ち、そこから人のつながりを強化していくと、最終的には地域とのつながりができてくる可能性がある。さらに地域の社会資源とつながっていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホームの行事への参加や見学を呼びかけ、実際に見て頂くようにしているが、まだまだである。今後も地域の皆さんの理解が深まるような取り組みを行っていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 概ね2ヶ月に1度、利用者・ご家族・市職員・民生委員・地域住民などの参加を得て開催している毎回会議の最後には意見や感想・要望等を聞く時間を設け、そこで出た意見等は職員間で周知しサービスの向上に活かしている</p> <p>(外部評価) 会議は年6回実施し民生委員や行政の担当者、利用者家族などの出席もある。勉強会や避難訓練などと共に実施し、管理者は意見をもらうことを心がけている。会議では質問や感想などを聞き取っているが、会議録への記載が充分とは言えない。</p>	運営推進会議で意見を求めるほか、会議以外の場においてリラックスした場面で意見を聞くなどの工夫や、参加者の具体的職名や感想なども議事録に記載しておくこと、後々見返す時に役立つため、議事録の記載内容の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当者とは、必要時に電話や訪問をして相談等に応じて貰っている。また運営推進会議に参加してもらい意見やアドバイスを頂いている。</p> <p>(外部評価) 市の長寿介護課や福祉課、地域包括支援センターなどと連携を取り、報告や相談などを適宜行っている。また、運営推進会議においても意見を伺う機会を設けている。施設に関する感想を教えてもらうことが多い。</p>	運営推進会議で他の施設での取組みで印象に残っていることなどを行政職員に問いかけてみたり、市に報告や相談に行った際、堅苦しくない場面で確認するなど工夫も期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修や勉強会を開き身体拘束についての理解を深めている。ホームはユニット間がリビングで繋がっておりお互いの利用者が行き来できるようになっている。また、玄関の施錠をしておらず、好きな時に外へ出られるようになっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないことの宣言を事業所内に掲げている。また、言葉による拘束にも十分留意しながら声かけを行うよう管理者は職員に伝えている。身体拘束に関する知識が不確かで、詳しい情報を得たいと管理者は考えている。</p>	拘束に関する知識や取組みに関する詳しい情報を得て、事業所全体として拘束に関する知識を共有し、自信を持って利用者とかかわっていくことを望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会等で学ぶ機会を作り、職員間で注意をしながら正しいケアが出来るよう努めている。身体的虐待だけではなく強い口調や威圧的な態度などの心理的虐待の防止にも重点を置いている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人については司法書士の方をお招きし勉強会を開催したが職員の理解度はまだまだ不十分である。現在までに一度、地域包括支援センターの方の協力で成年後見人制度を利用した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはきちんと納得していただけるよう分かりやすく説明するように努めている。改定事項などは運営推進会議などを利用して説明するようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には運営推進会議や面会時に、声掛けをし意見や要望等を伺うようにしている。日々の生活の中で利用者さんの気持ちや声に耳を傾けるよう努めている。	
			(外部評価) それぞれの利用者に担当者が決められ、各担当者が責任を持って情報を収集して、かかわり方を介護支援専門員や管理者などと検討し、家族にも説明して意見を伺っている。家族からはかかわりに関する具合的な希望も得られ、日々のかかわりに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は介護現場で職員と一緒に業務しながらコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員の声を運営に活かせるよう努力している。	
			(外部評価) 管理者は現場で職員と共に仕事を行う中で意見を聞き、施設内で検討し、意見を上層部に伝えるなどの工夫をしている。また、申し送りノートを活用し、職員が意見を記入している。さらに、職員が資格取得できるように配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 仕事をしながら学べる環境を整え、職員一人ひとりのキャリアアップを支援している。勤務については出来る限り希望休や家庭環境に配慮して安心して働ける職場となるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修への参加を促したり、専門職による内部の勉強会を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加したり、同地区の施設と交流させて貰い良いところを学ばせて貰っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談を行い、ご本人が困っている事や思い・不安を聞き取るように努めている。契約時にも再度確認している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の今までのご苦勞に共感し、不安な気持ちに寄り添えるよう努めている。入所後も面会時などに声掛けをさせてもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを提供しながら、その方のできる事・やりたい事・困っている事を見つけ、記録に残し、適切な対応が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員が見守る中で、利用者同士がお互いを支えあい助け合いながら生活が送れるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に受診同行や外出を依頼し、少しでも一緒に過ごせる時間を作れるよう協力を頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元から入所の利用者さんは地域の行事に参加すると昔からの知人に会う事が多く、昔話で盛り上がります。また、お墓参りや行き付けの美容院などへの外出をご家族さんをお願いしたりしている。  (外部評価) 文化祭や町民運動会などの地域の行事に参加したり、馴染みの美容室に出かけるなど、以前からのつながりを大切に考えている。また、入居後も2つのユニットの交流は日々行われており、気の合う人と一緒に過ごせるような配慮をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 上手くコミュニケーションがとれない方は、職員が間に入り話題を提供したり、時々、食卓の席替えをしたりして、良い関係づくりが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期の入院での退所者には、ご家族にお電話で様子を聞いたり、ホームでお役に立てることがあればと声掛けを行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での言葉や行動から、ご本人の気持ちを汲み取れるように努めている。出来る限り利用者一人ひとりと関われる時間をとるようにしている。	
			(外部評価) 「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用して聴き取り把握している。利用者の様子は随時確認し、表情の変化を見逃さないように気をつけ記録している。分かりにくい場合は声掛けに対する表情で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、以前の職業や生活歴・趣味・得意な事などを把握し、職員間で共有し最善のケアが提供できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。状態の変化や気づきを記録に残し、職員間で情報が共有できるようにしている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、担当者が介護計画に基づきサービス内容が実施できているかを評価し、3ヶ月置きにモニタリングや担当者会議を実施している。状態に変化が見られる場合は、その度に検討し見直すようにしている。	
			(外部評価) モニタリングは各担当者が3か月ごとに実施し、6か月に一度担当者会議を開いて見直しをしている。認知症介護実践者研修を受講している職員が多く、計画作成の際にはアイデアが多くできるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は、利用者さんの1日の様子や行動に重点をおき記入している。いつもと違う行動や言動、今まで出来ていたことが出来なかったりと言う状態の変化等の気づきに注意し、書き記し、職員間で情報が共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 特別な取り組みは行っていないが、機会があるごとに、ご家族やご本人からの意見や要望を聞き取るようにし、その都度、対応して行くように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 最寄の駐在所・消防署と連携を図り、地域の慰問団体との交流・地元の商店街での買い物など、地域の協力を得ながら安全・安心な生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科協力医が月2回往診に来てくださり、急変時は2 4時間体制での対応が可能となっている。外科・精神 科等の定期受診に関しては、協力医に報告の上、以前 からのかかりつけ医の受診が受けられるようになって いる。	
			(外部評価) かかりつけ医については、入居時に説明し家族に選ん でもらっている。月2回医師の往診を利用し、他科受 診は家族の協力を得て行っている。休日でも看護職員 による対応ができるように看護師を採用予定である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤看護師を配置しており、24時間オンコール体勢を とっているため、1日中状態の変化等の連絡が可能であ り状況に応じた指示が得られるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、病院へ情報提供書を提出し、スムーズに 治療が進められるようにしている。病院やご家族と連 絡を密に取り、話し合いにも同席させて頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で協力医より病状の説明等を行い、ご家族を 交えて話し合いをさせてもらっている。ご本人・ご家 族の意向を伺い、不安な気持ちに寄り添えるよう努め ている 話し合いの際には、ホームでできることを明確にし同 意を頂いている。	
			(外部評価) 今までに2名の看取り経験があり、管理者や看護職員 がフォローする体制を取っている。看取りに関する研 修を本年度実施し、実践事例を聞くことで不安を取り 除く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、消防署や医師・看護師による、定期的な訓練を実施し、急変時の対応がスムーズに行えるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署に協力を頂き避難訓練を実施している。避難訓練のほかに、消防署の主催で行われる研修に参加するなどして職員が防災意識を高めるよう努めている。水や食料品の備蓄の準備も行っている。また、場合によってはホームが地域の避難所として提供できるのではと、考えている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練や避難訓練を実施している。今年度はスモークテントで煙からの避難を体験し、避難への意識を向上させている。災害用の備蓄は3日間準備しており、地域の避難所として事業所を提供できるのではないかと管理者は考えている。	地域の方々が避難訓練にも参加しやすいように、備蓄食料等の試食会や体験会などのイベントを企画する取組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けが威圧的にならないように気をつけている。無理強いするのではなく、自分から行動に移そうと言う気持ちになるような声かけに努めている。	
			(外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、入居時に顔写真使用の同意を得ている。また、近所の行事に参加を希望しない場合など利用者の意向を尊重して対応している。日々の声掛けにおいても「○○しますか」「行きますか」などと意思を尊重する声掛けをして自由に判断してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴時に着替える服を自分で選んでもらったり、作業やレクリエーションなどは本人がしたいと思う事を選んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の日課に沿って生活をされているが、本人の希望やペースに合わせて、できる限り自由に過ごして頂くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師さんが訪問して下さっている。外出時には本人に、来ていく服を選んで頂き、お化粧の声掛けを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 車椅子の方が多いため、職員が洗った食器を皆さんに拭いた頂いたり、座った状態で出来る野菜切りなどの作業を手伝って頂いている。	
			(外部評価) 食事のメニューに関する意見を聞いて、希望に基づいて調理をすることもある。食事の下ごしらえや食器洗い、配膳などできることは手伝ってもらい、利用者も日々の大切な営みとして捉えている。食事形態は刻み食など状態に合わせて工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が不在のため確かなカロリー計算は出来ていないが、野菜を中心にお肉やお魚を交互に提供したりしている。利用者個々の状態に合わせた量・形態で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、できる方は自力で、難しい方は介助で口腔ケアを実施している。毎晩 義歯の洗浄消毒を行い清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行い失禁を減らし、トイレでの排泄が行えるように支援している。車椅子の方が多いため便座への移乗を生活上のリハビリとしている。	
			(外部評価) おむつ使用者は1名で、昼は履くパンツや簡易パットを利用するケースが多い。利用者の排泄リズムを把握し、約2時間おきの排泄誘導を心がけている。緩下剤の利用は少なく、野菜の摂取や運動で自然排便を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維を摂取したり、適度な運動を取り入れ、出来る限り自然排便を目指している。利用者の便通状態によっては、主治医の指示にて薬を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日の設定はあるが、その日の状況や希望に応じて日の変更は可能となっている。また同性の介助にも配慮している。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回の入浴ができる体制を整えている。また、その日の体調に応じて入浴日の変更にも応じている。入浴剤を用いたり、ゆず湯など季節感を感じる入浴を実現している。同性介助を基本とし、利用者の希望に合わせるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転とならないように、日中適度な運動を取り入れ夜間にきちんと睡眠が取れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前を確認し誤薬防止に努めている。お薬情報は誰もが目にできるところで管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴を参考に得意な事や趣味等を介護計画書のサービス内容に取り入れ、張り合いのある生活を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や外出に出かけた際に、普段いく事のないレストランやフードコートでの外食支援を行ったり、ご家族との外出や外泊も自由に出来るようにしている。  (外部評価) 家族の協力で月に1回程度墓参りや外食などの外出ができる利用者もいる。また、買い物の機会にレストランで食事をすることもある。屋外でおやつを食べたり、縁側に出て食事をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 生活保護受給者のみ金銭管理を支援している。必要な物の購入は、こちらで立て替えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りや電話応対が難しい方が多いため、こちらからの返信はなかなか出来ていない。ご家族からの手紙は、ご本人が一番目に付くところに貼ってあげるようにしている。何度も読み返され喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下に花を飾り、壁には、みんなで作った季節のクラフトや写真を飾っている。リビングの畳の間は、お雛様を飾ったり、冬は掘りコタツをセットしたり季節感が感じられるようにしている。  (外部評価) 施設内には利用者が作った作品が数多く飾られており、季節感のある飾りもある。また、利用者がゆっくりとくつろげるように廊下にソファを置き、利用者が2～3人で会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓には円形テーブルを置きみんなの顔が見渡せるようになっている。廊下にはソファを置いておりいつでも集まって過ごせるようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、ご自分が使い慣れたタンスやお布団を持ち込まれたり、ご家族との写真を飾ったりされている。毎月自分で塗った塗り絵カレンダーを貼っている。  (外部評価) 部屋にはベッドとたんすが備え付けられており、自宅から馴染みの家財道具を持ち込むこともできる。利用者と職員が共に部屋作りを考え、塗り絵や手作りのカレンダーなどを飾っている部屋もあり心が和む空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室に木製のネームプレートを吊るし、部屋を間違えないように、ご自分で作ったクラフト作品を貼り付けたりしている。洗面所に個々に口腔ケアの道具を収納できる棚があり、他者のものと間違えないようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
所在地	愛媛県伊予市双海町大久保字石の久保甲974-8
自己評価作成日	平成 28年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・春にはホーム周辺に菜の花が、海岸線には桜が咲き乱れ、夏は潮風を浴びながらの日向ぼっこ夕方には見事な夕日が差し込む、自然に恵まれた環境の中で、季節を感じながら1日1日を穏やかに安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。</p> <p>・職員が働きながら学べる環境を重視し、研修への参加・資格獲得への支援に力を入れている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から5年を経過し、地域の社会資源としての認識が広がり、地域の行事等への参加も積極的に行われ、ボランティアが来所するなどの実績も積みあがっている。特に、職員一丸となって利用者と家族のような関係で暮らせる施設づくりに取り組んでいる。利用者自身のことを理解するために「認知症の人のケアマネジメントセンター方式」を活用したり、普段の生活の中で共に調理や後片付け、作品作りや行事などを行い、利用者の思いをくみ取ってかかわっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 徳田 茂美

評価完了日

平成 28年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設の理念のほかに職員の心得を掲げ、職員・利用者が大きな一つの家族となって、利用者はお互いを支えあい職員は利用者に寄り添う支援を心がけています。理念についてはスタッフ会などを利用し話し合う機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 理念は施設内に掲示され、職員の心得も一緒に確認できるようになっている。家族のような関係を重視し、お互いに支えあう、寄り添って声を掛けるなどの実践に日々取り組んでいる。理念や心得にあるように笑顔が多くみられる施設である。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎日の生活の中で地域の方との交流が図れるよう行事に参加したり、買い物や散歩に出かけている。ホームのイベント(餅つきやソーメン流し等)に地域の方をご招待したりしているが、日常的な交流はまだまだ出来ていない。</p> <p>(外部評価) 餅つきに協力してもらったり、よもぎ取りを手伝ってもらったりなど地域の方々と少しずつ交流はできている。近所の店での会話や農作業中の方と会話するなど、日々の生活の中で挨拶や交流を心がけているが、施設への来所者数は少なめで推移している。</p>	小中学校や保育園など、今までにはない切り口で関係性を持ち、そこから人のつながりを強化していくと、最終的には地域とのつながりができてくる可能性がある。さらに地域の社会資源とつながっていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ホームの行事への参加や見学を呼びかけ、実際に見て頂くようにしているが、まだまだである。今後も地域の皆さんの理解が深まるような取り組みを行っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 概ね2ヶ月に1度、利用者・ご家族・市職員・民生委員・地域住民などの参加を得て開催している毎回会議の最後には意見や感想・要望等を聞く時間を設け、そこで出た意見等は職員間で周知しサービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は年6回実施し民生委員や行政の担当者、利用者家族などの出席もある。勉強会や避難訓練などと共に実施し、管理者は意見をもらうことを心がけている。会議では質問や感想などを聞き取っているが、会議録への記載が充分とは言えない。</p>	運営推進会議で意見を求めるほか、会議以外の場においてリラックスした場面で意見を聞くなどの工夫や、参加者の具体的職名や感想なども議事録に記載しておくこと、後々見返す時に役立つため、議事録の記載内容の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当者とは、必要時に電話や訪問をして相談等に応じて貰っている。また運営推進会議に参加してもらい意見やアドバイスを頂いている。</p> <p>(外部評価) 市の長寿介護課や福祉課、地域包括支援センターなどと連携を取り、報告や相談などを適宜行っている。また、運営推進会議においても意見を伺う機会を設けている。施設に関する感想を教えてもらうことが多い。</p>	運営推進会議で他の施設での取組みで印象に残っていることなどを行政職員に問いかけてみたり、市に報告や相談に行った際、堅苦しくない場面で確認するなど工夫も期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 研修や勉強会を開き身体拘束についての理解を深めている。ホームはユニット間がリビングで繋がっておりお互いの利用者が行き来できるようになっている。また、玄関の施錠をしておらず、好きな時に外へ出られるようになっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないことの宣言を事業所内に掲げている。また、言葉による拘束にも十分留意しながら声かけを行うよう管理者は職員に伝えている。身体拘束に関する知識が不確かで、詳しい情報を得たいと管理者は考えている。</p>	拘束に関する知識や取組みに関する詳しい情報を得て、事業所全体として拘束に関する知識を共有し、自信を持って利用者とかかわっていくことを望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会等で学ぶ機会を作り、職員間で注意をしながら正しいケアが出来るよう努めている。身体的虐待だけではなく強い口調や威圧的な態度などの心理的虐待の防止にも重点を置いている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人については司法書士の方をお招きし勉強会を開催したが職員の理解度はまだまだ不十分である。現在までに一度、地域包括支援センターの方の協力で成年後見人制度を利用した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはきちんと納得していただけるよう分かりやすく説明するように努めている。改定事項などは運営推進会議などを利用し説明するようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には運営推進会議や面会時に、声掛けをし意見や要望等を伺うようにしている。日々の生活の中で利用者さんの気持ちや声に耳を傾けるよう努めている。	
			(外部評価) それぞれの利用者に担当者が決められ、各担当者が責任を持って情報を収集して、かかわり方を介護支援専門員や管理者などと検討し、家族にも説明して意見を伺っている。家族からはかかわりに関する具合的な希望も得られ、日々のかかわりに活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は介護現場で職員と一緒に業務しながらコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員の声を運営に活かせるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 管理者は現場で職員と共に仕事を行う中で意見を聞き、施設内で検討し、意見を上層部に伝えるなどの工夫をしている。また、申し送りノートを活用し、職員が意見を記入している。さらに、職員が資格取得できるように配慮がなされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 仕事をしながら学べる環境を整え、職員一人ひとりのキャリアアップを支援している。勤務については出来る限り希望休や家庭環境に配慮して安心して働けるよう職場となるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修への参加を促したり、専門職による内部の勉強会を実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互研修に参加したり、同地区の施設と交流させて貰い良いところを学ばせて貰っている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に面談を行い、ご本人が困っている事や思い・不安を聞き取るように努めている。契約時にも再度確認している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の今までのご苦勞に共感し、不安な気持ちに寄り添えるよう努めている。入所後も面会時などに声掛けをさせてもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを提供しながら、その方のできる事・やりたい事・困っている事を見つけ、記録に残し、適切な対応が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員が見守る中で、利用者同士がお互いを支えあい助け合いながら生活が送れるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に受診同行や外出を依頼し、少しでも一緒に過ごせる時間を作れるように支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元から入所の利用者さんは地域の行事に参加すると昔からの知人に会う事が多く、昔話で盛り上がります。また、お墓参りや行き付けの美容院などへの外出をご家族さんをお願いしたりしている。 (外部評価) 文化祭や町民運動会などの地域の行事に参加したり、馴染みの美容室に出かけるなど、以前からのつながりを大切に考えている。また、入居後も2つのユニットの交流は日々行われており、気の合う人と一緒に過ごせるような配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 上手くコミュニケーションがとれない方は、職員が間に入り話題を提供したり、時々、食卓の席替えをしたりして、良い関係づくりが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期の入院での退所者には、ご家族にお電話で様子を聞いたり、ホームでお役に立てることがあればと声掛けを行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での言葉や行動から、ご本人の気持ちを汲み取れるように努めている。出来る限り利用者一人ひとりと関われる時間をとるようにしている。	
			(外部評価) 「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用して聴き取り把握している。利用者の様子は随時確認し、表情の変化を見逃さないように気をつけ記録している。分かりにくい場合は声掛けに対する表情で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、以前の職業や生活歴・趣味・得意な事などを把握し、職員間で共有し最善のケアが提供できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。状態の変化や気づきを記録に残し、職員間で情報が共有できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、担当者が介護計画に基づきサービス内容が実施できているかを評価し、3ヶ月置きにモニタリングや担当者会議を実施している。状態に変化が見られる場合は、その度に検討し見直すようにしている。	
			(外部評価) モニタリングは各担当者が3か月ごとに実施し、6か月に一度担当者会議を開いて見直しをしている。認知症介護実践者研修を受講している職員が多く、計画作成の際にはアイデアが多くできるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は、利用者さんの1日の様子や行動に重点をおき記入している。いつもと違う行動や言動、今まで出来ていたことが出来なかったりと言う状態の変化等の気づきに注意し、書き記し、職員間で情報が共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 特別な取り組みは行っていないが、機会があるごとに、ご家族やご本人からの意見や要望を聞き取るようにし、その都度、対応して行くように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 最寄の駐在所・消防署と連携を図り、地域の慰問団体との交流・地元の商店街での買い物など、地域の協力を得ながら安全・安心な生活が送れるよう支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 内科協力医が月2回往診に来てくださり、急変時は2 4時間体制での対応が可能となっている。外科・精神 科等の定期受診に関しては、協力医に報告の上、以前 からのかかりつけ医の受診が受けられるようになって いる。	
			(外部評価) かかりつけ医については、入居時に説明し家族に選ん でもらっている。月2回医師の往診を利用し、他科受 診は家族の協力を得て行っている。休日でも看護職員 による対応ができるように看護師を採用予定である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤看護師を配置しており、24時間オンコール体勢を とっているため、1日中状態の変化等の連絡が可能であ り状況に応じた指示が得られるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、病院へ情報提供書を提出し、スムーズに 治療が進められるようにしている。病院やご家族と連 絡を密に取り、話し合いにも同席させて頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で協力医より病状の説明等を行い、ご家族を 交えて話し合いをさせてもらっている。ご本人・ご家 族の意向を伺い、不安な気持ちに寄り添えるよう努め ている 話し合いの際には、ホームでできることを明確にし同 意を頂いている。	
			(外部評価) 今までに2名の看取り経験があり、管理者や看護職員 がフォローする体制を取っている。看取りに関する研 修を本年度実施し、実践事例を聞くことで不安を取り 除く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、消防署や医師・看護師による、定期的な訓練を実施し、急変時の対応がスムーズに行えるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署に協力を頂き避難訓練を実施している。避難訓練のほかに、消防署の主催で行われる研修に参加するなどして職員が防災意識を高めるよう努めている。水や食料品の備蓄の準備も行っている。また、場合によってはホームが地域の避難所として提供できるのではと、考えている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練や避難訓練を実施している。今年度はスモークテントで煙からの避難を体験し、避難への意識を向上させている。災害用の備蓄は3日間準備しており、地域の避難所として事業所を提供できるのではないかと管理者は考えている。	地域の方々が避難訓練にも参加しやすいように、備蓄食料等の試食会や体験会などのイベントを企画する取組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けが威圧的にならないように気をつけている。無理強いするのではなく、自分から行動に移そうと言う気持ちになるような声かけに努めている。	
			(外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては、入居時に顔写真使用の同意を得ている。また、近所の行事に参加を希望しない場合など利用者の意向を尊重して対応している。日々の声掛けにおいても「○○しますか」「行きますか」などと意思を尊重する声掛けをして自由に判断してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴時に着替える服を自分で選んでもらったり、作業やレクリエーションなどは本人がしたいと思う事を選んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の日課に沿って生活をされているが、本人の希望やペースに合わせて、できる限り自由に過ごして頂くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師さんが訪問して下さっている。外出時には本人に、来ていく服を選んで頂き、お化粧の声掛けを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と一緒に調理の下準備や味付け・盛り付けを手伝って頂いている。また、ご自分の食事の配膳・下膳・片付けまでをお願いしている。	
			(外部評価) 食事のメニューに関する意見を聞いて、希望に基づいて調理をすることもある。食事の下ごしらえや食器洗い、配膳などできることは手伝ってもらい、利用者も日々の大切な営みとして捉えている。食事形態は刻み食など状態に合わせて工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が不在のため確かなカロリー計算は出来ていないが、野菜を中心にお肉やお魚を交互に提供したりしている。利用者個々の状態に合わせた量・形態で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、できる方は自力で、難しい方は介助で口腔ケアを実施している。毎晩 義歯の洗浄消毒を行い清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で排尿・排便を管理している。定期的に誘導・声掛けを行い失禁を減らせるよう支援している。	
			(外部評価) おむつ使用者は1名で、昼は履くパンツや簡易パットを利用するケースが多い。利用者の排泄リズムを把握し、約2時間おきの排泄誘導を心がけている。緩下剤の利用は少なく、野菜の摂取や運動で自然排便を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維を摂取したり、適度な運動を取り入れ、出来る限り自然排便を目指している。利用者の便通状態によっては、主治医の指示にて薬を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日の設定はあるが、その日の状況や希望に応じて日の変更は可能となっている。また同性の介助にも配慮している。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回の入浴ができる体制を整えている。また、その日の体調に応じて入浴日の変更にも応じている。入浴剤を用いたり、ゆず湯など季節感を感じる入浴を実現している。同性介助を基本とし、利用者の希望に合わせるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転とならないように、日中適度な運動を取り入れ夜間にきちんと睡眠が取れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前を確認し誤薬防止に努めている。お薬情報は誰もが目にできるところで管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴を参考に得意な事や趣味等を介護計画書のサービス内容に取り入れ、張り合いのある生活を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や外出に出かけた際に、普段いく事のないレストランやフードコートでの外食支援を行ったり、ご家族との外出や外泊も自由出来るようにしている。	
			(外部評価) 家族の協力で月に1回程度墓参りや外食などの外出ができる利用者もいる。また、買い物の機会にレストランで食事をすることもある。屋外でおやつを食べたり、縁側に出て食事をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 生活保護受給者のみ金銭管理を支援している。何名かは個人で持っており、外出時などに買い物をしたりされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) それぞれの希望により手紙やはがき・電話が自由出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下に花を飾り、壁には、みんなで作った季節のクラフトや写真を飾っている。リビングの畳の間は、お雛様を飾ったり、冬は掘りコタツをセットしたり季節感が感じられるようにしている。  (外部評価) 施設内には利用者が作った作品が数多く飾られており、季節感のある飾りもある。また、利用者がゆっくりとくつろげるように廊下にソファを置き、利用者が2～3人で会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓には円形テーブルを置きみんなの顔が見渡せるようになっている。廊下にはソファを置いておりいつでも集まって過ごせるようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、ご自分が使い慣れたタンスやお布団を持ち込まれたり、ご家族との写真を飾ったりされている。毎月自分で塗った塗り絵カレンダーを貼っている。  (外部評価) 部屋にはベッドとたんすが備え付けられており、自宅から馴染みの家財道具を持ち込むこともできる。利用者と職員が共に部屋作りを考え、塗り絵や手作りのカレンダーなどを飾っている部屋もあり心が和む空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室に木製のネームプレートを吊るし、部屋を間違えないように、ご自分で作ったクラフト作品を貼り付けたりしている。洗面所に個々に口腔ケアの道具を収納できる棚があり、他者のものと間違えないようにしている。	